

地名の歴史と由来／「川南」・「西田端」・「西田」

幸田有美子(杉並区立郷土博物館分館)

「川南遺跡」の上に建つ
荻窪地域区民センター

荻窪地域区民センター（荻窪二丁目）の周辺には、「川南」・「西田端」・「西田」など、かつての地名が付く施設などが多くあります。たとえば、商店会である「荻窪川南共栄会」や、「荻窪川南郵便局」があります。また、当センターの建つ場所には、「川南遺跡」があり※1、先土器時代の石器が多く出土した場所です。この「川南」とは、かつてこの辺りの小字名のこと※2、現在では、施設名などにその名残をとどめています。

荻窪地域区民センター付近の
古い地名「西田端」と「西田」

善福寺川に架かる橋のひとつに、「西田端橋」（荻窪一丁目）があります。橋の周辺は、かつて「田端村」と呼ばれ、町制施行により大正13年（1924）、「杉並町大字田端小字西田端」となった場所にあたります。橋の名は、この小字名「西田端」からとっています※3（写真1）。



写真1「西田端橋（荻窪二丁目8番附近・昭和37年頃）」（当館蔵）
団地入居者により人口が増えたためおこなわれた、橋の補強と善福寺川の護岸工事の様子。写真上部に「荻窪団地」が写っている。当団地は、平成23年（2011）に建て替え、「シャレール荻窪」と名称変更した。

また、橋の西側には、「西田小学校」や「西田公園」などがあります。この「西田」とは、前述の「西田端」の由来とは異なり、小字名ではありません。これは、昭和7年（1932）の区制施行時に「大字田端」を「西田町」と「東田町」に分けた時にできた町名に由来しています。

現在、「川南」・「西田端」・「西田」は、ほど近い



写真2「現在の西田端橋」（筆者撮影）

距離に位置しています。改めて各々の地名の由来をみると、異なる経緯をもって成立したことがわかります。

今回で最終回となり、これまでの連載を振り返ると、古い地名は身近なところに残されていることに、あらためて気付くことができました。現在の町名や町域からは、想像しづらいかもしれませんが、橋や施設名などを手がかりにすることで、町の歴史の名残を見つけることができます。なお、杉並区教育委員会では、『杉並区史跡散歩地図』を発行しています。この地図は、生涯学習推進課文化財係（本庁舎東棟6階・阿佐谷南1-15-1）、杉並区立郷土博物館（大宮1-20-8）、郷土博物館分館（天沼3-23-1）、の3カ所で配布しています。ぜひ手にとって地名に目を向けながら、散策を楽しんでみてはいかがでしょうか。

※1：昭和49年（1974）、当センターの建設をきっかけに遺跡発掘調査がおこなわれました。

※2：当センターのある場所は、かつての「井荻町大字下荻窪小字川南」に相当します。元は、明治22年（1889）の市町村制で「井荻村」となった村で、大正15年（1926）の町制施行によって「井荻町」となった町です。

※3：『杉並区立郷土博物館研究紀要別冊 杉並の川と橋』（平成21年・杉並区立郷土博物館発行）

主要参考文献

『文化シリーズ19 杉並の地名』（昭和53年・杉並区教育委員会発行）
『文化財シリーズ12 西田小学校北遺跡・川南遺跡発掘調査報告書』（昭和50年・杉並区教育委員会発行）

